

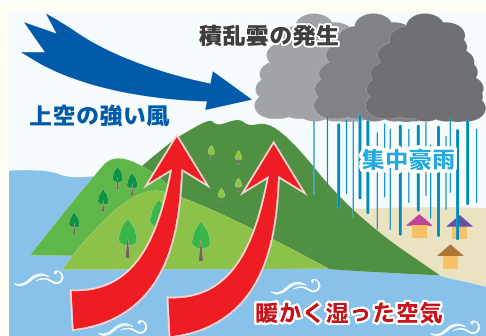
大雨に備えましょう！～線状降水帯がもたらす集中豪雨～

先月の6月2日～3日にかけての大雨で、和歌山県内で約2,800棟、御坊市内で13棟の住宅に浸水被害がでました。他にも道路が冠水し通行止めになるなど、皆様の生活に多大な影響を及ぼしました。この大雨の原因は、台風2号の影響により、梅雨前線が活発化し、「線状降水帯」が発生したためだと言われています。

線状降水帯とは？

線状降水帯とは、次々と発生する積乱雲が列をなし、同じ場所を通過または停滞することで、線状に伸びた地域に大雨を降らせるものです。

線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合、半日程度前から、「線状降水帯」というキーワードを使って気象庁が呼びかけます。これらの情報を見聞きした場合、気象情報を集めるなど、大雨へ備えましょう。



大雨の情報収集をしましょう

災害や避難に関する情報は、様々な手段で入手することができます。普段から、情報を入手できる手段を確認しておきましょう。

- ・テレビやラジオ
- ・防災行政無線、市公式LINE、市ホームページ
- ※市公式LINEは右の二次元コードから、友だち登録できます。
- ・「和歌山県防災ナビ」アプリ、防災和歌山ツイッター、防災和歌山メール配信サービス
- ・気象庁ホームページなど

災害時の情報収集方法は、右の二次元コードから令和4年の広報ごぼう11月号をご覧ください。



御坊市の取り組み

洪水・土砂災害避難対策ワークショップ開催

地域防災力の向上及び避難対策の強化を目指し、洪水・土砂災害避難対策ワークショップを地域別で開催しています。

令和4年度は、野口地区と藤田地区の自主防災会を対象に実施しました。ハザードマップを確認しながら防災マップの作成、自主防災会における活動計画と必要な物品の洗い出し等を行いました。

今後は他の地区でもワークショップを行い、「御坊市洪水・土砂災害避難対策マニュアル」を各地区（自治会）ごとに作成し、該当する自主防災会へ配布する予定です。

ワークショップ参加者の声



- 議論することで具体的な行動計画が見えてきた。
- 他の自治会の意見が聞けて良かった。
- 近所同士で助け合って避難することが大事だと再確認できた。普段からそのような関係を作っておきたい。
- 防災意識を高めるのにとても良かった。
- 定期的で開催して、情報の更新をしていけたらと思う。



野口地区のワークショップの様子

和歌山県へ要望していた河川監視カメラが設置されました



野口橋河川監視カメラが設置され、令和5年5月29日から運用開始されています。

県ホームページ上にリアルタイムの映像がアップされています。

次の二次元コードから確認できます。

